



# Rethink フォーラム

# 視点を換えれば、世の中は変わる。

「Rethinkフォーラム」とは、「心みたされる明日をともに創りあげていきたい」という全国各地の皆さまとRethink PROJECTの考えが一つになって開催する地域に根差したイベントです。



## 「Rethink沖縄～未来を拓く、なは☆ひとつづくり、まちづくり、ゆめづくり～」

「Rethink沖縄～未来を拓く、なは☆ひとつづくり、まちづくり、ゆめづくり～」(琉球新報社主催、RethinkPROJECT共催)が10月26日、開かれました。市民も観光で訪れる人も心豊かになれる県都那覇市の可能性について、昨年11月に那覇市長に就任した知念覚さん、JT沖縄支社長の尾島厚志さん、那覇市出身のタレント崎山一葉さんが語り合いました。モデレーターは琉球新報社常務取締役統合広告事業局長の松元剛。鼎談(ていだん)の様子をお伝えします。



会場協力=沖縄ハーバービューホテル

### モデレーター



**松元剛さん** (琉球新報社常務取締役統合広告事業局長)  
1965年、那覇市生まれ。駒沢大卒。89年琉球新報社入社。基地問題を長く担当。編集局報道本部長、読者事務局特任局長、編集局長などを経て2021年6月常務取締役統合広告事業局長(現統合広告事業局長)。息抜きは草野球と映画鑑賞。



**知念覚さん** (那覇市長)  
1963年那覇市生まれ。沖縄大卒。85年に那覇市役所に入庁。秘書広報課長、総務部長、政策統括調整監を経て、2015年から那覇市副市長。22年11月に那覇市長就任。市政のキャッチフレーズは「未来を拓く、なは☆ひとつづくり、まちづくり、ゆめづくり」。趣味は庭の手入れ。



**尾島厚志さん** (JT沖縄支社長)  
1982年生まれ。法政大卒。2004年コスモ石油入社。09年日本電気入社。10年日本たばこ産業(JT)入社。事業企画室課長、営業部課長、法人営業部量販担当部長、沖縄支社副支社長を経て、23年4月に沖縄支社長就任。



**崎山一葉さん** (タレント)  
那覇市出身。2011、12沖縄観光親善大使ミス沖縄。2004年から東京で、クイズ番組の海外リポートを始め、スポーツバラエティーやサッカー、格闘技、ゴルフなどスポーツに関するMCやリポートの他、現在は経済や行政の分野も幅広くこなす。修学旅行アドバイザーや、下地島宇宙港アンパサダー、リゾートアンパサダーなどITや県内初の試みに挑戦中。

### 出席者

## テーマ01 観光もビジネスもできるまち

【松元】今回の副題「未来を拓く、なは☆ひとつづくり、まちづくり、ゆめづくり」に込めた意味を教えてくださいませんか。

【知念】今後選ばれる自治体の四大要素があります。これは経済的に成長する要素でもありません。一つにはテクノロジーです。二つ目は才能。人です。三つ目はテリトリー。場所の質ですね。最後は寛容性。この四つをしっかりと見据えてまちづくりをしていかないと、県都那覇といえども衰退していくのは目に見えています。なは☆ひとつづくり、まちづくり、ゆめづくり「は」の四大要素を意識しています。この中で沖縄が一番優れているのは寛容性だと思っています。ここを意識しながら物事を展開すれば新たなものが見えてくると思っています。そのことは、常に職員にも伝えていきます。

【松元】将来の那覇市を担う子どもたちを育てることも政策の柱にしています。

【知念】妊娠、出産、保育、就学、進学の各段階で、きめ細やかな支援を展開していきたいと考えています。保育士不足の解消に向け「保育士等就職活動渡航費等支援事業」や「県外保育士移住費等支援事業」を実施し、県外から定住してもらうように取り組んでいます。格差を是正するため、「まなびクーポン」を発行し学習塾代を補助しています。今後は中学生まで対象を広げたいと思っています。また、次年度には「こども家庭センター」を設置します。子どもに関する部署をセンターに集約し、横の連携を強化して取り組んでいきたいと考えています。出産から中学校卒業まで一人一人の子どもの情報を引き継いでいければ、連続した子育て支援が可能になると考えています。

【松元】今年4月に就任された尾島支社長、沖縄に来て感じた那覇のイメージや他県にはない魅力をお伺いします。

【尾島】自然の豊かさ、人の豊かさを感じることができているのが、この那覇、沖縄県だなと思います。自然という意味では海もそうですし、世界自然遺産もあります。すぐく癒やされるながら仕事をしています。趣味でゴルフをしますが、そこで見える景色もそう。内地では味わえない環境に囲まれて過ごせるのは非常に大きな魅力だと思います。

【松元】崎山さんは沖縄の魅力を国内外に発信しています。那覇市の魅力とはどんなところでしょうか。

【崎山】仕事で7年東京に出た以外はずっと那覇に住んでいます。住んでいて特に不便を感じたことはありません。観光という点からは少し違う見え方がします。今レンタカーが足りないと言われていますが、運転免許を持っていない人が多いのも事実。那覇市の強みはゆるいルールがあり、パスがあることです。タクシーやレンタカーだけでなく、そこに頼れる強みを生かすのがいいと思っています。台湾は台北駅で先に荷物を預けることができ、ここでチェックインできます。そういうものが那覇市内にあれば、手ぶらのまま国際通りを歩いて、ご飯を食べたり、買い物したりできます。Z世代

に対する課題解決になると感じています。

【知念】那覇市の強みで一番大きいのはアジアの中心に位置し、4時間圏内に20億人が住んでいるという立地です。MICEも含めた可能性が大いにあります。その立地をどう生かしていくか。沖縄は知的な魅力が蓄積されていて、さらに観光もある。この特性を活かす戦略をもたないといけないと考えています。崎山さんがおっしゃったのは、インタウチチェックインという仕組みですが、これはMICEには欠かせません。会議が終わって、帰るだけなら、荷物を先に預けるだけでなく、出国審査まで一気に済ませてしまおうということも可能性として考えられます。

【尾島】位置的にアジアパシフィックの真ん中なのは大きな強みです。そこで課題だと思うのは、言語です。多言語対応は那覇としてもっとやること、観光客が滞在しやすくなります。

■MICEについて  
MICEとは、企業等の会議(Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行(Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議(Convention)、展示会・見本市、イベント(Exhibition/Event)の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称です。MICEは、企業・産業活動や研究・学会活動等と関連している場合が多いため、一般的な観光とは性格を異にする部分が多いものです。このため、観光振興という文脈でのみ捉えるのではなく、MICEについて、「人が集まる」という直接的な効果はもちろん、人の集積や交流から派生する付加価値や大局的な意義についての認識を高める必要があります。  
出典:国土交通省 観光庁ホームページ

## テーマ02 住む人も訪れる人も心豊かに

【松元】DXはどのように進めていくのでしょうか。

【知念】行政DXの推進は市民サービスの向上と行政事務の効率化につながります。子育て分野でも高い成果が上がっています。認可保育園等の入園申し込みのオンライン申請率は60%に達しました。現在、消防の現場確認検査もDXで実施しています。最終的にはまち自体をDXしないと、民間のDXは進みません。究極的にはエリアのリアルデータを企業のみなさんに提供することも可能だと思っています。これを仕掛けられるのは行政だけです。自動運転を見据えたまちの作り方も考えなければいけません。

【松元】今那覇に住んでいる市民も訪れた人も心豊かに自分らしくいられるまちの発展に必要な要素はどのようなことだと思いますか。

【知念】那覇市は2015年に全国で2番目の速さで「性の多様性を尊重する都市・なは」(通称レインボーなは)を宣言しましたが、非常に多くの市民から応援を受けました。多様性に対する寛容性を持つ、当たり前の事を当たり前にできるのが那覇市、沖縄県のいいところ。これは大きな財産です。

【尾島】それは私も感じますね。私たちJT沖縄支社では市民のみならず、こみを拾う活動「ひろえば街が好きな運動」を実施しています。清掃活動等の取り組みを通じてみなさまと協業しながらまちづくりをすることはとても大事ですね。

## テーマ03 文化芸術を武器に

【松元】那覇にはいろいろなコンテンツがありますが、視点を換えると、那覇の新たな魅力となるものがあるのではないのでしょうか。

【知念】戦略はとても重要で、何が武器になるのか見極めないといけないですね。那覇で一番の武器になるのは文化芸術だと感じています。ここをどう商品化していくか、今後の観光戦略にとっても重要です。芸能公演ができる会場がクルーズ船の港から徒歩圏内に多数あります。そこで定期公演があり、それに合わせてクルーズ船を寄港させる。こちらの文化にあわせて、向こうのスケジュールを組むような形にもっていきけるような仕組みを作る必要があるかと思っています。

【崎山】那覇空港周辺の海は透き通っています。サステナブルツーリズムがかなう場所がその那覇市だと思っています。サンゴの再生DXという技術があります。その技術を使って海や陸を再生しながら景観もよくなる。再生の段階で観光コンテンツを取り入れ学びながら一緒に育てて行く沖縄ができれば心が豊かになっていくと思っています。

【尾島】海外から人材を受け入れることを考慮した上で、英語で対応できる体制を作ることが必要だと思っています。寛容性は観光の目玉になります。言語が障壁になるのはもったいないですね。

【知念】人が集まるには教育が重要なことです。英語教育に特化したまち等、特色あるまちを作り上げられるといいですね。また、インクルーシブ教育も手厚くやっています。ケアの必要な子が普通学校で学ぶには看護師をつける必要があり、人件費もかかりますが、それはやるべきだと思っています。全ての子どもは可能性を持っています。人に対して投資ができる優しいまちは必ず生き残る。この部分を曲げずに頑固にやっていきたいです。

【松元】本日は那覇のまちの発展に必要な魅力の創出やこれからのあり方などについてお話しいただきました。立場の違いがさまざまな意見を伺う中で、新しい視点に気付くことができたのではないのでしょうか。将来の那覇を元気にして人々の幸せがふれる魅力あるまちへと進むことを期待しております。

